らかに紋が出現する時は一方にも出やすく，出ないときはもう一方にも出にくいという傾向があるという程度しか現在の資料からは言えなかった.

なお，対立遺伝と考えられる例として高山市周辺のアイノミドリシジミ♀多型にも触れたが，いずれにせよここでは現有の資料の解釈のし方の一つの例として述べたにすぎぬことを最後に述べておきたい.

20. アゲハチョウ科における epiphysis の形態について　牧　林　功（大宮市）

周知のように Papilionidae の種の脛節内側には epiphysis が存在する．このことは同科の重要な特徴の一つである．しかし従来，その形態についてはあまり顧みられなかったそこでここにその形態の一端を明らかにした.

Epiphysisは内面に大きく開口した袋状を呈する．そしてその形態は二つの類型に分けられる．一つは *Parnassius* に見られるものでラグビーボール型をなし，他の型はその先端が尖った形態をし *Papilio* に見られる.

Baroniinae は *Baronia brevicornis* のみよりなるが，本種の epiphysis は *Parnassius* 型で非常に大きく，脛節長の½を超える．Parnassiinae の Parnassiiniは 典型的な *Parnassius* 型で，その付着点は脛節のほぼ中央に位置する．またその内側外側共に毛が密生している．Zerynthiini は *Parnassius* 型の epiphysis を持つが，その付着点は脛節中央より末端に偏倚し，なかには epiphysis 末端が脛節末端と等しい位置まで片寄ったものもある．また epiphysis は毛に覆われるが一部，外側の後位は毛が尖ったウロコ状に特化している．この形態は Papilioninae と共通するものである.

Papilioninae の Leptocircini のもののうち演者の検したものでは，*Graphium* (*Pathysa*) *eurous* のものは *Parnassius* 型を呈するが，他はすべて *Papi.io* 型の epiphysis を持っている．また *G* (*P.*). *aristeus*, *C* (*P.*). *agetes* のそれは Zerynthiini のように付着点が脛節末端に偏倚する．だがその他はほぼ脛部の中央に位置している．Papilionini のものはすべて *Papilio* 型の epiphysis をもち，脛節のほぼ中央に位置している．また Papilioninae では epiphysis の表面の一部に毛の特化したウロコ状片を持つことは Zerynthiini のそれと同様である.

21. 白山とその山麓の蛾　小　坂　厳（小松市）

白山は石川・岐阜両県にまたがり，最高峰の御前峰は2702mである．最後の氷河期の面影を残している山としては，わが国の西南限に位置しているために蛾の分布上，いくつかのものは西限にあたるものもあり，ここでは現在までに確認や報告のあった613種の中から分布上特に重要と思われる下記の数種について報告した.

和名のあとの（　）内に，採集地・採集者または報告者・発表年度を示した.

ジョウザンヒトリ（観光新道．小坂，1977）
マダラキノコヨトウ（中宮．富沢，1977）
アルプスヤガ（室堂平．神保，1967）
タカネハイイロヨトウ（室堂平．小坂，1977）
ハイイロハガタヨトウ（中宮．富沢，1977）
ミヤマハガタヨトウ（みだが原．田中，1966）
オオアカヨトウ（みだが原．田中，1966）
ミヤマショウブヨトウ（中宮．小坂，1974）
アイノクロハナギンガ（中宮．富沢，1977）
アルプスギンウワバ（南竜馬場．神保，1968）
ヨシノキシタバ（中宮．富沢，1977）
バンタイマイマイ（白峰．小坂，1973）
シロオビコバネナミシャク（中宮．富沢，1977）
アカマダラシマナミクャク（みだが原．田中．若林，1963；室堂平．小坂，1977）
サザナミナミシャク（南竜馬場．神保，1968，みだが原．田中，1967）
アルプスカバナミシャク（南竜馬場．神保，1968）
ソトモンツトガ（尾添．富沢，1977）

ウスキモンノメイガ（中宮．富沢，1977）
オオウンホソハマキ（白山．川辺，1971）
タカネハイイロハマキ（室堂平．川辺，1970）

22. 小笠原の蝶の生態

小　路　嘉　明（茨木市）

筆者は過去4回にわたり小笠原（母島，父島，兄島）へ渡島した．そこで観察した蝶の生態についてに紹介する．

種名	アゲハ	ウスキシロチョウ	ウスイロコノマチョウ	ウラナミシジミ	オガサワラシジミ	マルバネウラナミシジミ	イチモンジセセリ	オガサワラセセリ
発生期	3—11月（通年発生と思われる）	3？—11月	通年	通年	通年（ただし，2月は未記録）	10—12月	不詳	通年（但，2月未記録）
食草	栽培ミカン類 アウザンコショウ☆ ヒメザンショウ☆	ハネミセンナ（*Cassia alata*） インドサイカチ？他1種（*Cassia* sp.）	セイバンモロコシ オガサワラスズメヒエ サトウキビ イヌアワ（兄☆） シュロガヤソリ☆ ギョウギシバ	クサセンナ ハマナタマメ	オオバシマムラサキ テリハコブガシ（クスノキ科） コブガシ* ** ハチジョウグワ	モモタマナ	ワセイヌビエ	ハチジョウススキ☆ *** サトウキビ
訪花植物など	ランタナ ナガボソウ		吸汁：タコノキ腐果 ガジュマル腐果	シマザクラ	シマザクラ オオバシマムラサキ アゲラータム モンテンボク ムニンヒメツバキ	モモタマナ	不詳	ランタナ ナガボソウ
活動時期	日中	日中	夕刻	日中	日中 ♂はテリトリーを張る	日中(11月) 夕刻(10月)	不詳	夕刻♂はテリトリーをつくる
産卵形式	食草の新芽～若葉に1卵ずつ	食草の新芽～若葉の葉裏に1卵ずつ	食草の成葉裏面に1～数卵	つぼみに1卵ずつ	原則として，成葉裏面に1卵ずつ	つぼみに1卵ずつ	不詳	成葉表面に1卵ずつ ***
幼虫の静止位置	食草の葉表	食草の葉表	葉裏～茎	つぼみ・花の中	花茎	花穂	巣内	巣内
蛹化位置	食樹の枝	食草の複葉中脈上（裏面）	食草上	根ぎわの石の下*	食樹の根ぎわの石の下*	不明	巣内（飼育）	巣内（飼育）
その他					卵寄生蜂 幼虫寄生蝿 （未同定）確認			

*大西公一氏による．
**小島圭三，中村慎吾氏による
***青山潤三氏による
☆　未発表

○詳細は Crude（11，13，14）に掲載済．

23. 日本産モンキチョウ属の一未記録種について

白　水　隆（九大・教養・生物）

日本では未記録のモンキチョウ属の1種，*Colias fieldii* Ménétriès が四国および九州で採集されていることが判明したので報告したい．調査した標本は下記の2頭．

1♂，徳島県徳島市丈六町，1965年11月13日，平井雅男氏採集．

1♀，福岡県遠賀郡芦屋町浜口，1964年10月，石川匡宏（まさひろ）・石川延寛（のぶひろ）氏採集．

この2頭の標本による限り R. Verity（Rhopalocera Palaearctica, 1905—1911）の図示した中国産の亜種 subsp. *chinensis* Verityよりも，むしろ原名亜種（演者はネパール，アフガニスタンの標本と比較した）に近い．

現在のところ，本種は日本の土着種とは考え難く，大陸からの迷チョウまたは迷チョウに由来する一時的な発生個